

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1472603149
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会
事業所名	グループホーム 花物語 さがみ
訪問調査日	平成20年10月10日
評価確定日	平成21年1月14日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 10月 20日

【評価実施概要】

事業所番号	第1472603149号
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会
事業所名	グループホーム 花物語 さがみ
所在地	神奈川県 相模原市磯部156-1 (電話) 046-259-2223

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年10月10日(金)	評価確定日	平成21年1月14日

【情報提供票より】平成20年9月10日(水)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 12月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	18人	常勤 4人	非常勤 20人	常勤換算 10.0人

(2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	52,000 円	その他の経費(月額)	45,000 円	
敷金	100,000 円			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 252,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要 (9月10日 現在)

利用者人数	18名	男性	7名	女性	11名
要介護1	6名	要介護2	3名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 86歳	最低	75歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合相模更正病院	内田歯科医院
---------	----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは平成17年12月に、相模原市南部の住宅地に建設されました。運営法人は、介護付有料老人ホーム、シニアマンション、複数のグループホームを運営しています。当ホームは開設当初より「誠心誠意、一期一会、以心伝心、喜怒哀楽、十人十色」に解説を加え、ホームの想い(理念)として、運営されています。自然の環境に恵まれた住宅地域ながら、大家さんに提供された畑では利用者も手伝い、種々の野菜が栽培され、新鮮な野菜が食卓を豊かにしています。開設以来、地域のイベントには極力参加し近隣との交流に努力をしてきており、昨年の運営推進会議の発足以降、認知症やグループホームへの理解が深まり、地域との交流は一段と進んでいます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、「地域密着型サービスとしての役割」を目指した基本方針の改定に対応すべく改善課題が提起されていましたが、人事異動直後のため、支援の実践の方に力が注がれていました。今年度はホーム長が中心となり、地域との交流に配慮しつつ、利用者の安全を優先すると共に、穏やかなホームを目指す事を重点に“ホームの理念”を見直す事としています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長及び常勤者にとっては2回目の自己評価であり、その意義及び目的については、理解した上で、自己評価を実施しています。その結果を、ホーム長が取りまとめ、非常勤職員を含む全員に説明をしています。外部評価の結果についても、高い関心を寄せています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は昨年2回開催され、今年度は7月の開催の後、10月に予定されています。今年度一部変更のあった地元の新委員に対して、推進会議の意義や目的について説明をする他、認知症に関する説明やグループホームについての理解を深める努力をしています。会議での助言が参考となり、利用者が徘徊等で警察に保護された際には、“花物語さがみ”の利用者だと分る様、工夫をしています。推進会議の委員の方々にも、ホームへの理解が深まっています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族の意見や苦情等については、面会時の会話に注意を払って収集しているほか、玄関にはご意見箱を設置し投函を募っています。医療体制の変更の際、臨時の家族会を開催し、その時の声を反映して、玄関に当日出勤者の名簿を掲示しています。また10月の運営推進会議の後には、家族会とパーペキュー大会を開催し家族と意見交換をする事としています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>日常生活における地域との連携については、八幡神社の例祭や盆踊り、道路の清掃等に、歩ける方を中心に参加し、交流の努力をしています。また、昨年の運営推進会議の発足以降、連合自治会長、民生委員にホームの存在を理解していただきました。最近では大正琴やアコーディオン奏者等ボランティアの来訪が増えています。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時からホームの理念として、「誠心誠意、一期一会、以心伝心、喜怒哀楽、十人十色」の5つの言葉を大切に、運営されています。これらを元に地域の中で取り組む平易なホーム独自の表現を加える事も期待されますが、職員間の話し合いによりこの表現を継続する事でサービスを向上していく意向です。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月定期的に行われるスタッフ会にてホーム長の方針のもとに全職員で話し合っています。また、職員の目に入りやすいようスタッフルームや事務所に掲示されています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事には極力参加し、地域社会との接点を築くよう努力しています。地域の行事には八幡様のお祭り、盆踊り、大凧上げの鑑賞、地域の道路掃除などに、歩ける方を中心に参加しています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	常勤職員には全員に自己評価シートを配り個人別に記入しています。その結果をホーム長が常勤者と話し合いながら、取りまとめています。非常勤者にはホーム長よりスタッフ会にて説明し理解を得ています。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、前年度は2回、今年度は7月に開催され、次回は10月下旬に予定されています。地域の役員のメンバー変更もあり、議題として、運営推進会議の意義と目的、グループホームの理解と認知症の方との接し方、等を説明し、グループホームへの理解に向け努力しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	利用者は、相模原市を始め、近隣の市町村からも入居しています。昨年医療連携の移行手続きの際には、これらの市町村関係者との対応に出向いています。相模原市の福祉当局の担当者からは新しい入居者の可否についての照会がある等、役所との関係も深まりつつあります。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に、利用者の健康状況などが報告できるよう、現状を記録するファイルを作成しています。毎月の発送物と一緒に、必要な情報を送付しています。なお、急を要する事項は電話で連絡し、記録に留めています。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に「ご意見箱」を設置し、家族の意見、要望等を投函していただく様子を配っていますが、殆んど投函された事はありません。しかし、医者への往診制を導入の際の家族説明会にて、提出された要望を反映し、玄関には当日勤務の職員名簿を掲示しています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職や社内異動等、異動の多い現状は、運営上の大きな課題の一つです。入居者には、この異動によるデメリットが出来るだけ少なくなる様全員で努力しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は「県央グループホーム協議会」に所属している、ホーム相互間の交換研修に参加しています。また、昨年から今年にかけて、ヘルパー2級の講習会に参加し、2名の職員が資格を取得しています。体制のレベルアップに向けて、研修の受講への構想が練られています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ホーム長は2ヶ月ごとに開催される「県央グループホーム協議会」主催の会合に参加し、同業者相互間の情報交換を実施しています。職員の相互研修に参加する相手のグループホームとは其の様な機会を使って、先方のホームと調整がなされています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居者については、家族の見学、利用者本人の見学と相互の話し合い、ホーム長によるアセスメントと家族の同意、等の手順でサービス利用者の納得を得て利用を決定しています。病院から、直接入居される場合は、ホーム長が出向いています。本人が見学する際はお茶を飲みながら、入居者と一緒に会話する場を作るよう配慮しています。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者中心のケアが実践されていることが職員のヒアリングからもわかりました。利用者の内、出来る方は、キッチンでの食器洗い、調理の下ごしらえ、等に参加するなど、力を発揮する場面作りに配慮しています。また、行事等ではスタッフも楽しむ気持ちを持ちながら利用者を見守っています。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は日頃の支援の中で、一人ひとりの想いを聞き漏らさずに把握し、その人らしい暮らしを第一に考えるよう努めています。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月一回のスタッフ会でカンファレンスを行い、利用者と家族の要望や希望を聞き、職員からの意見も参考にしながら介護計画を作成しています。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行っていますが、体調の変化や要望等、必要に応じて随時見直しをしています。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	今年度は医療連携体制が認可された事により利用者の健康管理や通院時などの医療支援に活かされています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8月より湘南あつぎクリニックより訪問看護と往診を行っており、健康管理には綿密な連携をとっています。また、従来からのかかりつけ医を継続して受診する事も家族対応のもと可能となっています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在重度化した利用者はいませんが、看取りの指針は提示しており、同意書ももらってあります。家族、医療機関と協力の上終末期の対応について職員全員が共有し十分な態勢を整えて行きたいと考えています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は一人ひとりを尊重し、プライドを傷つけることのないよういねいな声掛けをしています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や朝食の時間は本人のペースに合わせています。日課はある程度しか決まっておらず、一人ひとりに合わせた一日を過ごしてもらっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方は、下ごしらえや調理、片付け等を職員と一緒にに行っています。畑があり、収穫したり、ホットプレートを使用して調理したり多くの方に参加できるよう工夫しています。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	時間帯は決まっていますが一人ひとりゆっくりと入浴を楽しめるよう配慮しています。同性介助にも対応しています。また、入浴拒否のある方には、声掛けのタイミングを考慮した対応がなされています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	特に毎日のレクリエーションは決まっておらず、季節に合わせた行事やレクリエーション、ドライブ等を考えています。日々の食事の準備や買い物、洗濯、掃除等一緒に出来る事を大切にしています。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は自由に外出しています。広い敷地内では畑や花を楽しんだりしています。その日の体調や希望に添い散歩やドライブに出かけます。また、車の通らない相模川のほとりも散歩道としています。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関の鍵は掛けず出入りは自由にしています。敷地内は広く自由に散策でき開放感があります。敷地には閉塞感が無い様にとの配慮から門扉は設けられていません。職員は、利用者が外に出られたときは気を配り行動を常に把握するよう心がけています。また、履物にはホームの連絡先を記載してあります。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を消防署の協力のもと年一回行っています。スタッフ会議で緊急時の対応の訓練を行っています。本年度は、11月に予定しています。なお災害時の対応として、非常食、水の備蓄について前向きに検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立表は前もって作成していませんが、栄養のバランスを考えた食材を定期的にとまめてバランスよく調達しています。基本的に有る食材を使用して家庭的な空気と食についての要望を優先し当日の献立を利用者と共に考えて作っています。まとめて調達した食材は使い切る様にしていますが、献立により不足する材料はその都度職員が調達しています。栄養のバランスやカロリーなどを振り返る事も期待されます。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>周囲は自然が多く鳥の声や虫の音が聞こえてきます。建物内もとても明るく、光が十分に採り入れられています。すっきりとしていて、季節の飾りやみんなで作ったカレンダーが貼られています。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室は広くゆったりしています。入居の際本人の使い慣れたものを持ち込んでもらっています。</p>		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム花物語さがみ
(ユニット名)	大地
所在地 (県・市町村名)	神奈川県相模原市磯部156-1
記入者名 (管理者)	井上 順子
記入日	平成 20 年 9 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	五つの四文字熟語により、介護に向かう姿勢を、表している。特に地域密着をしめすための理念は無いが、日常生活の中で、いつも地域の方たちとの連携は、取るようにしています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一ヶ月に一回のスタッフ会で、毎回皆で、読み、確認しあう。日頃より目に入るように、スタッフルーム・事務所等に掲示している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議で、伝えている。玄関に掲示。家族会で、つたえる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩・買い物などのときは、挨拶を欠かさない。ご近所から、果物やお花などいただくことがあり、とても感謝しています。		ご近所の方に畑のお手伝いのためのボランティアを、お願いすることも考えています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事には、出来る限り、参加させていただく。(お祭り、盆踊り、地域清掃など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今は、とくに行っていません。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価については、改善を出来る箇所については、改善していく必要があると、思います。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度初めての推進会議を、7月に行いました。メンバーが、3名とも変わっているため、こちらを知って頂くことから、又始めました。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年から開始した医療連携の体制に、変更があり、変更届について、相模原市はじめ他市へ、直接出向いたり、電話でお聞きするなど、親切に、対応して頂きました。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今のところ、ありませんが、必要に応じて、支援していきます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から、情報を集め、必要に応じて、対応して行きたいと、思います。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族の不安を取り除けるよう、たくさんの質問を頂きお話を頂くことが、大切と思います。又伺ったお話は、アセスメントとして、こんごのケアにいかして行きます。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	傾聴の姿勢の大切さは、スタッフ会等機会のあるたび、話している。外部者へ表せる機会については、今後の課題です。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会にいらした折に、お伝えできるよう、連絡ファイルを、設けました。必要な情報は、毎月の発送物と一緒に送っています。急な連絡が必要な場合は、そのつど電話等で、連絡し記録に残しています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を、玄関に置いています。個別に対応させて頂くこともあります。スタッフ全員に連絡が必要な場合は、1週間日報に記録または業務連絡にて、申し送りしています。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会・面談等でお話を伺い、おたがいに良いと思われる方法を考えます。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な要望には、できるだけ対応しています。(受診対応など)しかしかぎられた人員のなかでは、全て応じられるとは言えず、今後の課題です。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職については、運営上の大きな問題のひとつです。ホーム内だけでは解決の出来ることではないので、会社の協力も頂きながら、ご入居者には、スタッフが代わることのデメリットを、出来るだけ少なくするよう、対応していきたいと思っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、2～4名のスタッフには、グループホーム同士の相互研修に、参加してもらっています。又昨年末から今年にかけて、ヘルパー2級取得の為に講習に参加し、2名のスタッフが、資格を取得することが出来ました。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一回開かれる県央グループホーム協議会に参加し、情報交換を行っております。又、毎年県央グループホーム協議会で、相互研修を行い、参加しております。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフト作成する際、勤務希望は出来る限り、希望に沿うようにしています。必要に応じて面談等で対応します。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ会・面談等においての、話し合い。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から、利用者・ご家族とお会いして、お話を聞く。(アセスメント) 記録し、入居の前にスタッフ全員に読んで、把握してもらう。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者・ご家族と、面談の機会を持ち、不安を取り除けるような質問等には、きちんと対応する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話の中で、どのような支援が必要かを、見極める。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	過去には、体験入居をして頂いたこともあり、今後必要な場合は、その都度ご家族と相談し、対応したいと思います。見学にいらした時に、一緒にお茶を召し上がって頂き、ご入居者とお話して頂くなどしております。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	キッチンと一緒に立ち、食器洗い・調理の下ごしらえなどを行う。理念のひとつである喜怒哀楽を大切に、表情豊かにお暮らしいただきたい。行事などは、一緒に楽しむこと。そのためには、まずスタッフが楽しむ気持ちが大事なことです。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が、気軽にお出で頂ける雰囲気作りを、心がけていきたいと思えます。		新しいスタッフとご家族との信頼関係を、これから作っていく必要があります。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	特に面会時間等は、きまりが無く、いつでもいらして頂けるよう、配慮しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特にはありません。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒にお茶を飲み、会話に入るのも、大切な仕事と、思います。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去され、亡くなられたご利用者のご家族が、時々遊びにこられます。これからもそのような関係を、大切にしていきたいと思えます。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ひとりひとりの思いを、聞き流さずに、納得出来る様に、対応している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ全員が、アセスメントにより、入居以前の生活を、把握している。又、ご家族との会話から、好みや生活歴を知ることが出来る。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのできる事を大切にして、一緒に行うようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会でカンファレンスし、出た課題と、日頃の生活の中から出た意見をもちこんだケアプランを作成するよう、心掛けている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現時点では、3ヶ月ごとの見直しを、行っている。次回の見直しまでに体調の変化などにより、必要なケアが変わった場合は、プランの見直しを行い、計画を作成し直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・カンファレンスでの情報を基に、見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護及び往診による、健康管理を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	昨年は、8月に、消防署の協力を頂き、避難訓練を行いました。本年は、秋に行いたいと思います。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、おこなっていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は、おこなっていないが、今後必要が生じた場合は、行って行きたいとおもいます。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8月より、訪問看護と往診を、湘南あつぎクリニックにお願いし、総合的に健康管理を行って頂けるような、体制を作りました。一部のご家族については、今までの主治医との関係を大切にしたいとお考えにより、ご家族による受診対応を行っております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、受診時付き添い、こちらでのご様子をお話したり、しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護に於いて、相談に乗って頂き、ご入居者の安心な生活を、支援しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後、ご家族との連絡を、常に取り、お見舞いに伺い、馴染みの状態を保てるよう、支援します。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	訪問看護と往診により、御本人とご家族が、ホームでの看取りを望み、ご家族にご協力頂ける場合は、ホームも協力をする方針です。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護を受ける際、看取りの指針を整備し、ご家族に同意を頂いています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	2名の方が、特養へ移っていかれました。ご退居の際、こちらでの生活が、わかるように、アセスメントをお持ちいただいています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	声掛けについては、ひとりひとりに添うような、声掛けをするように心掛けています。記録に他のご入居者のことを記録する必要がある場合は、イニシャルで記入するなどしています。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	出来る限り、希望をお聞きするようにしています。質問をするときは、具体的に答えやすいような、質問の仕方を心掛けています。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れについては、3回の食事・入浴など、おおまかな日課以外は、決まりはありません。そのときの気持ちに応じた生活を、して頂くよう心掛けています。	スタッフの意識に違いがあり、気持ちの統一を図る必要がある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族と一緒に馴染みの理美容店に行かれる方もいらっしゃいますが、ホームとしては、毎月の訪問理美容をお願いして、ご希望される方の支援をおこなっています。お化粧品は、ご自由にしていただいています。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	キッチンに入っただけの方には、調理・片付けなど一緒に、していただいています。長時間立位をとることが難しいかたには、テーブルで座ったまま、お手伝いいただけるようにしています。ホットプレートを使用し多くの方に、調理に参加して頂けるよう支援しています。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	可能な限り支援しています。タバコについては、スタッフが、ライターの管理をさせていただいております。喫煙のご希望があるときは、スタッフが、付き添います。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守りを行う。また介助の必要・不必要をみきわめ、介助の必要な方には、さりげなく介助できるよう心がける。通常のパターンと違いが見られる場合は、水分の不足・便秘・下痢等を疑い対処している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴をしていただけるよう心掛けています。毎日の入浴を希望される方には、そのように対応させて頂いています。また入浴の拒否のある方には、声掛け・タイミングを計るなどで対応しています。時間の希望がある方には、出来る限り対応していますが、スタッフの状況により100%できては、いません。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中・夜間含めデイルーム・居室ほかお好きな場所で、過していただいております。特に消灯時間は、ありません。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月2回のレクリエーションにて生け花・習字・などを実施。散歩・ドライブにて気分転換を図っています。食事の準備・洗濯物たたみ・掃除・買い物等ご利用者と一緒に出来ることをたいせつに支援していきたいと思えます。大地では、8月より、カレンダー作りを楽しんでいます。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、金銭管理が可能な方は所持しています。御自身で買い物されることもあります。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・ドライブ・敷地内の裏の畑に出たりと屋内だけのお過ごしにならぬ様、支援しています。畑を作り、今の時期は、夏野菜の収穫を、と一緒に楽しんでいます。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事企画として御家族も含め外出する様 支援しています。(ピクニックで、お弁当を食べたり、桜・バラ・アジサイ等の花見) 画一的ではなく、状態にあった、無理なくお一人お一人、楽しんでいただけるよう、企画を立てています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの希望のある場合は、そのつど対応しています。お手紙を書けるかたは、少ないですが、希望により、ポストへ投函などは、しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に決まりはなく、いつでも面会して頂いています。ご家族の面会は、こちらの生活を見ていただく良い機会であり、スタッフ全員気持ちよい対応を心がけています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアについては、スタッフ会ほか機会のあるたび、話しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中 正面玄関の鍵は開いており、自由に入出入り可能です。居室の鍵は、スタッフが掛けることは、ありません。外へ出て行かれた場合は、気を配っています。敷地の中は、自由に散策していただいております。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様の所在を把握する様 常に努めています。また常に、状態・様子を把握し、安全にお過ごしいただけるよう、配慮しています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品・洗剤は、管理しています。異食行為のある方は、見守りにより対応しています。爪きり・髭剃りなどは、ご自分で出来る方には、見守りをしております。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒には、障害物の撤去。食事の見守り。服薬の確認。利用者の所在確認。調理時の火の元の確認。ライターの管理等。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練は、出来ていません。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は、ホームでの避難訓練と、消防署のご協力を頂き、8月に行いました。本年は、秋に行いたいと思います。		消防署の協力の下、避難訓練を行う予定。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	問題・課題が出た都度、個々に対応しています。どのような暮らしを必要としているか、ご家族とともに、ご利用者にとって、一番良い方法を考えたいと思います。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックによる数値の変化、体調の変化や異変の発見の際は速やかに報告・対応しています。ご家族への報告、受診の必要性については、その都度対応しています。他のスタッフへの情報は、申し送り・記録等で、対応しています。現在週に1回の訪問看護を受けており、健康上の相談に乗って頂けてありがたく思います。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、ケースごとお持ちし、ケースの名前と御本人を確認後、服薬していただいています。		ケースから出し、薬だけ持っていくスタッフがあり、必ず、ケースのまま持っていきよう、徹底しなければと思います。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックにより、便秘の状態にある場合は、水分摂取量、食事摂取量をチェックし、その都度対応しています。牛乳を含め水分補給・繊維の多い食物の摂取など、様子をみながら、下剤の服用も検討します。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは、一人ひとりの状態・自立度に応じおこなっています。就寝前のポリデントの使用については、個別に対応しています。歯科受診の必要な方については、週1回の歯科往診を、受けていただいております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量のチェック、食事摂取量のチェックにより、個別に対応しています。不足していると思われる方には、ポカリ等をお勧めしたり、食事量については、捕食を検討し、召し上がっていただいております。食事の形態については、おかゆ・きざみなど、必要に応じて、対応しています。パン食を希望される方については、そのように対応しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事・おやつの前の手洗いは、必ず石鹸を使用し、使いきりのタオルで拭いていただいております。タオルは、使用后漂白剤で殺菌し洗濯をしています。1日2回トイレ周り・手すりを中心に、アルコール殺菌消毒しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾の消毒・殺菌は、こまめに行い、食器の殺菌、まな板・調理器具のアルコール消毒、キッチン内の専用エプロンの使用など。買い物はこまめに行くようにし、食材の消費期限に注意する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は、玄関の鍵は、掛けません。玄関まわりは、ご家族の協力を得て、花を絶やさないよう明るい雰囲気作りを、心掛けています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然豊かな環境の中、周りから特に不快な音はなく、静かに生活していただいております。季節ごとに壁飾りを、工夫したり、行事の写真を、貼るなど雰囲気作り心掛けています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりになれる空間は、居室のほかには、ありません。しかし、ソファに座り、ご利用者同士が会話されることは、日常よくあります。また、廊下にベンチを置いたり、空間作りは、工夫しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	ご入居のときに、居室に入る範囲であれば、自由にお持ちい ただいております。それぞれ工夫されお過ごしのご様子で す。仏壇をおもちのかたもいらっしゃいます。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	換気扇の使用、清掃時の換気、居室・デイルームの温度設 定等に気を配り、健康に注意しています。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	動きやすく、障害物のない、しかし適度につかまるところがあ るような、空間が理想と思っています。まだ工夫が必要と思 います。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	手作りカレンダーに、毎日、日付にしるしを付け、月日の確 認をしています。居室の確認が難しい方には、ドアにしるしを 付けるなどしています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関にベンチ・椅子・テーブルを置き、くつろぎの空間作りを 工夫しています。裏庭に畑を作り、ご利用者と一緒に収穫を 楽しんでいます。建物の周りは、歩いてまわれるスペースが あり、自由にあるいていただいています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年同様レクの日、時節により、その都度内容を考え、続けております。畑は、夏野菜が終わり、ジャガイモを蒔いたところです。もうすぐ、サツマイモの収穫が出来るのではと、楽しみです。

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム花物語さがみ
(ユニット名)	青空
所在地 (県・市町村名)	神奈川県相模原市磯部156-1
記入者名 (管理者)	井上 順子
記入日	平成 20 年 9 月 14 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	五つの四文字熟語により、介護に向かう姿勢を、表している。特に地域密着をしめすための理念は無いが、日常生活の中で、いつも地域の方たちとの連携は、取るようにしています。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	一ヶ月に一回のスタッフ会で、毎回皆で、読み、確認しあう。日頃より目に入るように、スタッフルーム・事務所等に掲示している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議で、伝えている。玄関に掲示。家族会で、つたえる。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩・買い物などのときは、挨拶を欠かさない。お隣の畑から、果物やお花などいただくことがあり、とても感謝しています。		ご近所の方に畑のお手伝いのためのボランティアを、お願いすることも考えています。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	行事には、出来る限り、参加させていただく。(お祭り、盆踊り、地域清掃など)		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	今は、とくに行っていません。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価については、改善を出来る箇所については、改善していく必要があると、思います。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度初めての推進会議を、7月に行いました。メンバーが、3名とも変わっているため、こちらを知って頂くことから、又始めました。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	昨年から開始した医療連携の体制に、変更があり、変更届について、相模原市はじめ他市へ、直接出向いたり、電話でお聞きするなど、親切に、対応して頂きました。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今のところ、ありませんが、必要に応じて、支援していきます。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から、情報を集め、必要に応じて、対応して行きたいと、思います。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者・ご家族の不安を取り除けるよう、たくさんの質問を頂きお話を頂くことが、大切と思います。又伺ったお話は、アセスメントとして、こんごのケアにいかして行きます。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	傾聴の姿勢の大切さは、スタッフ会等機会のあるたび、話している。外部者へ表せる機会については、今後の課題です。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会にいらした折に、お伝えできるよう、連絡ファイルを、設けました。必要な情報は、毎月の発送物と一緒に送っています。急な連絡が必要な場合は、そのつど電話等で、連絡し記録に残しています。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を、玄関に置いています。個別に対応させて頂くこともあります。スタッフ全員に連絡が必要な場合は、1週間日報に記録または業務連絡にて、申し送りしています。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会・面談等でお話を伺い、おたがいに良いと思われる方法を考えます。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な要望には、できるだけ対応しています。(受診対応など)しかしかぎられた人員のなかでは、全て応じられるとは言えず、今後の課題です。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職については、運営上の大きな問題のひとつです。ホーム内だけでは解決の出来ることではないので、会社の協力も頂きながら、ご入居者には、スタッフが代わることのデメリットを、出来るだけ少なくするよう、対応していきたいと思っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎年、2～4名のスタッフには、グループホーム同士の相互研修に、参加してもらっています。又昨年末から今年にかけて、ヘルパー2級取得の為に講習に参加し、2名のスタッフが、資格を取得することが出来ました。		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に一回開かれる県央グループホーム協議会に参加し、情報交換を行っております。又、毎年県央グループホーム協議会で、相互研修を行い、参加しております。		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	シフト作成する際、勤務希望は出来る限り、希望に沿うようにしています。必要に応じて面談等で対応します。		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフ会・面談等においての、話し合い。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前から、利用者・ご家族とお会いして、お話を聞く。(アセスメント) 記録し、入居の前にスタッフ全員に読んで、把握してもらう。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者・ご家族と、面談の機会を持ち、不安を取り除けるような質問等には、きちんと対応する。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	お話の中で、どのような支援が必要かを、見極める。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を行うこともあります。2泊3日ほどの間で、こちらの生活が、会うかどうかを、ご家族にも判断していただいています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	キッチンと一緒に立ち、食器洗い・調理の下ごしらえなどを行う。理念のひとつである喜怒哀楽を大切に、表情豊かにお暮らしいただきたい。行事などは、一緒に楽しむこと。そのためには、まずスタッフが楽しむ気持ちが大事なことです。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が、気軽にお出で頂ける雰囲気作りを、心がけていきたいと思っています。		新しいスタッフとご家族との信頼関係を、これから作っていく必要があります。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	特に面会時間等は、きまりが無く、いつでもいらして頂けるよう、配慮しています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特にはありません。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒にお茶を飲み、会話に入るのも、大切な仕事と、思います。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去され、亡くなられたご利用者のご家族が、時々遊びにこられます。これからもそのような関係を、大切にしていきたいと思えます。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家に帰りたいとの訴えがつかいご利用者には、気持ちが落ち着くよう、会話・散歩等に対応しています。ひとりひとりの想いや希望を把握し、その人らしく過ごせるよう対応しています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	スタッフ全員が、アセスメントにより、入居以前の生活を、把握している。又、ご家族との会話から、好みや生活歴を知ることが出来る。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのできる事を大切にして、一緒に行うようにしている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	スタッフ会でカンファレンスし、出た課題と、日頃の生活の中から出た意見をもりこんだケアプランを作成するよう、心掛けている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現時点では、3ヶ月ごとの見直しを、行っている。次回の見直しまでに体調の変化などにより、必要なケアが変わった場合は、プランの見直しを行い、計画を作成し直している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・カンファレンスでの情報を基に、見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	訪問看護及び往診による、健康管理を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	昨年は、8月に、消防署の協力を頂き、避難訓練を行いました。本年は、秋に行いたいと思います。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在は、おこなっていない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は、おこなっていないが、今後必要が生じた場合は、行って行きたいとおもいます。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	8月より、訪問看護と往診を、湘南あつぎクリニックにお願いし、総合的に健康管理を行って頂けるような、体制を作りました。一部のご家族については、今までの主治医との関係を大切にしたいとお考えにより、ご家族による受診対応を行っております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	必要に応じて、受診時付き添い、こちらでのご様子をお話したり、しています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護に於いて、相談に乗って頂き、ご入居者の安心な生活を、支援しています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院後、ご家族との連絡を、常に取り、お見舞いに伺い、馴染みの状態を保てるよう、支援します。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	訪問看護と往診により、御本人とご家族が、ホームでの看取りを望み、ご家族にご協力頂ける場合は、ホームも協力をする方針です。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護を受ける際、看取りの指針を整備し、ご家族に同意を頂いています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	必要があれば、支援させていただきます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	一人ひとりにあった声掛けを心掛けている。また顔馴染みではあるが、プライドを傷つけない様、気をつけている。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	出来る限り、希望をお聞きするようにしています。質問をするときは、具体的に答えやすいような、質問の仕方を心掛けています。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	1日の流れについては、3回の食事・入浴など、おおまかな日課以外は、決まりはありません。そのときの気持ちに応じた生活を、して頂くよう心掛けています。	スタッフの意識に違いがあり、気持ちの統一を図る必要がある。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	ご家族とご一緒に馴染みの理美容店に行かれる方もいらっしゃいますが、ホームとしては、毎月の訪問理美容をお願いして、ご希望される方の支援をおこなっています。お化粧品は、ご自由にしていただいています。	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	キッチンに入っただけの方には、調理・片付けなど一緒に、していただいています。長時間立位をとることが難しいかたには、テーブルで座ったまま、お手伝いいただけるようにしています。ホットプレートを使用し多くの方に、調理に参加して頂けるよう支援しています。	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	可能な限り支援しています。タバコについては、スタッフが、ライターの管理をさせていただいております。喫煙のご希望があるときは、スタッフが、付き添います。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンを把握し、見守りを行う。また介助の必要・不必要をみきわめ、介助の必要な方には、さりげなく介助できるよう心がける。通常のパターンと違いが見られる場合は、水分の不足・便秘・下痢等を疑い対処している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴をしていただけるよう心掛けています。毎日の入浴を希望される方には、そのように対応させて頂いています。また入浴の拒否のある方には、声掛け・タイミングを計るなどで対応しています。時間の希望がある方には、出来る限り対応していますが、スタッフの状況により100%できては、いません。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中・夜間含めデイルーム・居室ほかお好きな場所で、過していただいております。特に消灯時間は、ありません。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	月2回のレクリエーションにて生け花・習字・などを実施。散歩・ドライブにて気分転換を図っています。食事の準備・洗濯物たたみ・掃除・買い物等ご利用者と一緒に出来ることをたいせつに支援していきたいと思っております。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、金銭管理が可能な方は所持しています。御自身で買い物されることもあります。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・ドライブ・敷地内の裏の畑に出たりと屋内だけのお過ごしにならぬ様、支援しています。畑を作り、今の時期は、夏野菜の収穫を、と一緒に楽しんでいます。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行事企画として御家族も含め外出する様 支援しています。(ピクニックで、お弁当を食べたり、桜・バラ・アジサイ等の花見) 画一的ではなく、状態にあった、無理なくお一人お一人、楽しんでいただけるよう、企画を立てています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	話を掛けたいとの希望のある場合は、そのつど対応しています。お手紙を書けるかたは、少ないですが、希望により、ポストへ投函などは、しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会時間に決まりはなく、いつでも面会して頂いています。ご家族の面会は、こちらの生活を見ていただく良い機会であり、スタッフ全員気持ちよい対応を心がけています。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしないケアについては、スタッフ会ほか機会のあるたび、話しています。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中 正面玄関の鍵は開いており、自由に入出入り可能です。居室の鍵は、スタッフが掛けることは、ありません。外へ出て行かれた場合は、気を配っています。敷地の中は、自由に散策していただいております。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者様の所在を把握する様 常に努めています。また常に、状態・様子を把握し、安全にお過ごしいただけるよう、配慮しています。		全ての職員への意識の改善。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品・洗剤は、管理しています。異食行為のある方は、見守りにより対応しています。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒には、障害物の撤去。食事の見守り。服薬の確認。利用者の所在確認。調理時の火の元の確認。ライターの管理等。		全ての職員への意識の改善。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当や初期対応の訓練は、出来ていません。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昨年は、ホームでの避難訓練と、消防署のご協力を頂き、8月に行いました。本年は、秋に行いたいと思います。		消防署の協力の下、避難訓練を行う予定。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	問題・課題が出た都度、個々に対応しています。どのような暮らしを必要としているか、ご家族とともに、ご利用者にとって、一番良い方法を考えたいと思います。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックによる数値の変化、体調の変化や異変の発見の際は速やかに報告・対応しています。ご家族への報告、受診の必要性については、その都度対応しています。他のスタッフへの情報は、申し送り・記録等で、対応しています。現在週に1回の訪問看護を受けており、健康上の相談に乗って頂けてありがたく思います。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬は、ケースごとお持ちし、ケースの名前と御本人を確認後、服薬していただいています。		ケースから出し、薬だけ持っていくスタッフがあり、必ず、ケースのまま持っていきよう、徹底しなければと思います。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便チェックにより、便秘の状態にある場合は、水分摂取量、食事摂取量をチェックし、その都度対応しています。牛乳を含め水分補給・繊維の多い食物の摂取など、様子をみながら、下剤の服用も検討します。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは、一人ひとりの状態・自立度に応じおこなっています。就寝前のポリデントの使用については、個別に対応しています。歯科受診の必要な方については、週1回の歯科往診を、受けていただいております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量のチェック、食事摂取量のチェックにより、個別に対応しています。不足していると思われる方には、ポカリ等をお勧めしたり、食事量については、捕食を検討し、召し上がっていただいております。食事の形態については、おかゆ・きざみなど、必要に応じて、対応しています。パン食を希望される方については、そのように対応しています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	食事・おやつの前の手洗いは、必ず石鹸を使用し、使いきりのタオルで拭いていただいております。タオルは、使用后漂白剤で殺菌し洗濯をしています。1日2回トイレ周り・手すりを中心に、アルコール殺菌消毒しています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾の消毒・殺菌は、こまめに行い、食器の殺菌、まな板・調理器具のアルコール消毒、キッチン内の専用エプロンの使用など。買い物はこまめに行くようにし、食材の消費期限に注意する。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は、玄関の鍵は、掛けません。玄関まわりは、ご家族の協力を得て、花を絶やさないよう明るい雰囲気作りを、心掛けています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然豊かな環境の中、周りから特に不快な音はなく、静かに生活していただいております。季節ごとに壁飾りを、工夫したり、行事の写真を、貼るなど雰囲気作り心掛けています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室以外に、お一人になれる場所はありませんが、日中はそれぞれご自由に、お過ごし頂いております。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居のときに、居室に入る範囲であれば、自由にお持ちいただきしております。それぞれ工夫されお過ごしのご様子です。仏壇をおもちのかたもいらっしゃいます。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇の使用、清掃時の換気、居室・デイルームの温度設定等に気を配り、健康に注意しています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動きやすく、障害物のない、しかし適度につかまるところがあるような、空間が理想と思っています。まだ工夫が必要と思います。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	デイルームにホワイトボードを置き、今日の日付けと、スタッフが季節のイラストなどを書き、日付けと季節を感じていただきたく、工夫しています。また、一日の日課は、決まってはいたないが、時間をかんじていただくためにも良いとの想いで、午後3時にラジオ体操を行い、お茶を召し上がっていただいています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関にベンチ・椅子・テーブルを置き、くつろぎの空間作りを工夫しています。裏庭に畑を作り、ご利用者と一緒に収穫を楽しんでいます。建物の周りは、歩いてまわれるスペースがあり、自由にあるいていただいています。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

昨年同様レクの日、時節により、その都度内容を考え、続けております。畑は、夏野菜が終わり、ジャガイモを蒔いたところです。もうすぐ、サツマイモの収穫が出来るのではと、楽しみです。